再読 489（平成 26 年 6 月 16 日）　　氏名

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです

成功する人間には成功する性格があるのだ。能力で成功するのではない。

船井先生の言葉に、能力という言葉はあまり出てきません。性格または、クセづけという言葉の中に成功の道筋を多く語ってきたのです。

「人間の能力なんてものは、ほとんど差なんてないよ。性格で差がつくのだよ」仕事の進捗の遅さを先生に弁明したときに、何度も言われました。

「大切なことは成功するクセづけだ」ともよく言われます。

入社式の日、新入社員は私を含めた５人。その５人に、まず身につけるクセを船井先生は語りはじめました。

「相手のことを一生懸命、親身なって考えなさい。そのためには、３つのクセをまずつけることだ」メモをとる、必ず見送る、手紙を書く。「簡単なことでしょう。まずこの３点を徹底してごらん」人間の性格のなかで、好かれる性格づくりから始めよと、先生は言うのです。

“いまのあなたは、あなたになりたかった自分だよ”船井先生が口にするこの言葉は、人間の本質の一部を表しています。自分が自分をどう評価するかは関係ないことで、人間は他人からどう見られているか、その見られ方が性格なのです。どんなに「私は明るい人間だ！」と主張しても、「えっ、あなた暗いわよ！」と言われれば、その人は暗いことになります。どう見られているか？その一点を人間は自分で考え、理想の自分を演じていくのです。どんな人間になりたいのか？人間は、自己のことを考えることができる唯一の動物です。であれば、理想の自分をイメージしてそのイメージを実践する。

そのことでイメージに近づき、理想の自分を周りから感じてもらえます。誰だって嫌われたい、暗い、後ろ向きだ、愚痴っぽいと思われたくないでしょう。ならば、好かれたい、明るく前向きで感じのいいあなたをイメージして演じるのです。演じると言うと、首を傾ける方もいます。では、律すると言い換えてもよいのです。

メモをとる。誰かの話を聞いているとき、私はとことん真剣に聞いている、あなたの言葉に集中していますよ！それがメモをとる姿です。

見送る。その人間の本性は見送りの姿勢に出るものです。古くからあるサービス業の言葉に“迎え三歩に送りに七歩”というものがあります。船井先生の朋友で日本の流通業、とくに百貨店経営の立て直しの天才と言われた故山中鏆氏は先生の言葉を徹底した一人でした。

手紙を書く。思いを馳せる、という言葉があります。人の優しさは、より多くの他人に思いをはせる経験のなかで養われます。手紙を書くことは、まさにいま書いている相手の顔を思い浮かべ、その相手に思いをはせることです。「心を込める。相手のことを親身に考えるクセづけになるのだよ」一日三通は書きなさい。書いているうちに、苦痛でなくなるからと言われました。年に一千通。このクセづけは、このときから守っていることの一つです。成功する人間には、成功する性格がある。この言葉は、新入社員にとって大きな勇気、２つ目の勇気になる言葉でした。

仕事の進捗の遅さを先生に弁明したときに、何度も言われたことは何ですか？

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

「相手のことを一生懸命、親身なって考えなさい。そのためには、３つのクセをまずつけることだ」の３つのクセは何ですか？

（　　　　　　　　　　　　　　）　（　　　　　　　　　　　　　　）　（　　　　　　　　　　　　　　）

BrainG ブレイングループ BRAIN MEDICAL CORPORATION

（社員教育）